

植調試験地だより

石川試験地の巻

財団法人 日本植物調節剤研究協会 石川試験地 主任 中谷治夫

1 昨年に開設した新米の試験地

石川試験地は金沢平野の西方に位置し、北陸自動車道を1本隔てた向かいには日本海で、その反対側の南方には霊峰白山連峰が望まれる風光明媚な田園の一角にある。この地は早場米地帯として、米の端境期に新米を京阪神の消費地へ届けていたところである。かつては、石川県庁が金沢市へ移る前、この地美川町に存在したと言う歴史が残っている町だ。

美川町は北前船の寄港地として栄え、今でも美川仏壇、美川刺繍など伝統産業が継承されている。また、県下で最も大きな河川「手取川」の河口に位置しており、鮭の遡上河川として、或いは良好な漁場があることから漁業が盛んである。ふぐの卵巣の糠漬けが特産品だ。美川町には毎年5月に「おかえり祭り」という奇祭が行われ、漆塗りの屋台を紋付・袴の若者がラッパの音頭に合わせて、引き回す祭りが繰り広げられる。

砂壌土の試験水田という条件でこの美川町を選んだ、粗砂・微砂併せて90%の砂気の多い水田だ。河川水をポンプで汲み上げ、パイプで送水し、かん水は朝と夕それぞれ5時から8時までと決められている。試験水田の周辺には、合鴨農法、湛水直播田、転作大豆の水田があり、県下でも数少ない航空防除実施地区でもある。

試験水田は高速道路美川インター料金所から西へ500メートルの場所である。



2 15キロを通勤して試験地を運営

自宅は金沢市の近郊野々市町である。砂壌土試験地という制約で、自宅から15キロ離れた美川町の生産者から水田25アール1筆を借用し「適2試験」の運営に当たった。

田植の終わった水田には、ペンキを塗った白い板ラベルが林立したので、散歩の町民が足を止めて覗き込んでいく姿がよく見かけられた。

水を入れるため朝5時前に家を出ることが度々であった。ラベル立て、薬剤秤量、雑草調査、稲の生育調査、データー整理には家内に手伝って貰い大変助かった。

初めての試験地であるため、どんな雑草が発生するか推測がつかず、田植後にどんな雑草が発生するかわくわくしながら水田を観察する楽しみがあった。この試験水田

には、ノビエ、一年生カヤツリ、広葉雑草（アゼナ、タデ）、コナギ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、セリ、藻類が自然発生することが確認できた。これらは局地的な発生であるが、試験田の条件しとてまずまずでないかと考えている。

20年前に農試勤務時に適2試験を担当したことがある。植調事務局・北陸支部・農総試・水田の持主らの支援を受けて、どうにか初年目の試験を終えることができほつといているところだ。

おかえり祭り

5月22・23日／石川県石川郡美川町／藤塚神社



台車揃え



右大臣左大臣
平成15年、35年ぶりに復活

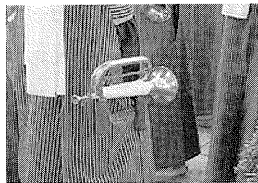
御輿



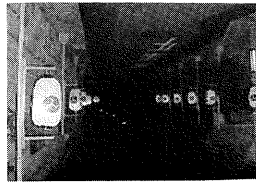
発興式



青年団行進



喇叭(ラッパ)



おかえり獅子
平成14年復活。(子供獅子は平成15年復活)

